

平成19年度 教師海外研修(派遣国:マレーシア)実践報告書

1. タイトル マレーシアの森はいま・・・
2. 氏名 麻 仁美
 学校名 豊中市立東泉丘小学校 担当教科 全教科
3. 実践教科 総合的な学習の時間、道徳 時間数 10 時間
4. 対象生徒・学年 3年生3学級 対象人数 119 名
5. カリキュラム案

(1)実践の目的

- ・マレーシアについてモノや写真を通じて体感することで興味を持ち、異文化に親しみを持つ。
- ・マレーシアの森に住む動物や昆虫、人々の暮らしについて、調べたり考えたりする。
- ・熱帯雨林の破壊と自分たちの生活とのつながりに気づき、犠牲や痛みについて考える。

(2)授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 2限目 テーマ: マレーシアってどんな国? ねらい: マレーシアボックスやスライドを通して、マレーシアがどんな国なのか興味・関心をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ グーグルアースでマレーシアに出発 ・ 簡単マレー語講座 ・ マレーシアボックス(写真と照らし合わせながら) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グーグルアース ・ マレーシアで収集したモノや写真 ・ プロジェクター ・ マレーシアの地図
3限目 4限目 テーマ: もっと知りたい!マレーシア!! ねらい:前回の授業で特に興味を持った分野について調べ、友達と交流しあえるように準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 興味を持った分野ごとにグループづくり。 ・ マレーシアで収集したモノや写真を各グループに渡し、詳しく説明。 ・ 本やインターネットを使って調べる。 ・ 森をつくったり、衣装を着る練習をしたり、発表にむけて取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マレーシアで収集したモノや写真、 ・ 昆虫図鑑・動物図鑑 ・ 本・インターネット ・ 模造紙、画用紙 ・ 楽譜(ラサ・サヤン)
5限目 6限目 テーマ:韓国・朝鮮、マレーシアと出会おう! ねらい:3,4年生で韓国・朝鮮やマレーシアについて調べたことを、わかりやすく伝え、交流しあう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3,4年生でそれぞれマレーシア、韓国・朝鮮について調べたことを発表しあい、交流を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マレーシアで収集したモノや写真 ・ 模造紙でつくった森 ・ パワーポイント
7限目 8限目 テーマ:マレーシアの森でくらす人々(森の恵み)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各班ごとに、ダガット村で撮影した写真を渡し、写真から想像したことや気づいたこと、分からないことなどを話し合い、発表しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ダガット村で撮影した写真 ・ プロジェクター

ねらい:ダガット村の写真を通して、森で暮らす人々に思いをはせることで、森や自然の恵みについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ダガット村に行くとしたら、どんなものを持っていくか、どんなことをしたいか、考える。 	
9限目 10限目 テーマ:マレーシアの森は今 ねらい: 多くの生き物のすみかとなっている森が、どんどん伐採されている現状について知る。 それが自分たちの生活とつながっていることをとらえ、物が豊かな生活の中にある多くの痛みを感じとる。	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで作った森(廊下に掲示していたもの)を伐採された森にかえる。 ・1枚の絵から・・・ ・パーム椰子について(実物とパワーポイントを使って) ・“子象の涙”のVTR ・ふりかえり 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・パーム椰子の実 ・洗剤 ・スナック菓子 ・口紅 ・オランウータンの絵本 ・“子象の涙”のVTR

6. 授業実践の詳細

1限目 2限目「マレーシアってどんな国？」

- ① グーグルアースで学校からマレーシアに出発！！②簡単マレー語講座
- ③ 4つのマレーシアボックス(分野別に)から、マレーシアってどんな国か考える
 - ★国の概要(国旗、ツインタワーのミニチュア、衣装、写真<本物のツインタワー、マレーシアの人々>)
 - ★自然(オランウータンのぬいぐるみ、人面カメムシのキーホルダー、コノハムシの仲間の標本、写真<巨大な葉っぱ、象の足跡、みみずの糞、しめ殺しの木、テングザル、ラフレシア、オランウータン、ボルネオ象>)
 - ★学校(マレーシアの小学生の制服(マレー系、中華系)教科書(3年生の体育、道徳、1年生の算数)写真<マレーシアの小学生と一緒にとったもの、マレーシアの中学生、タイヤのついたカバン>)
 - ★遊び・音楽(日本のアニメ<マレー語>)、サバ州の楽器、ラサ・サヤンの歌、セパタクロー、パチンコ)
- ④ わかったこと、もっとしりたいことなどをワークシートにまとめる。

〈児童の感想〉

・オランウータンのことをもっと知りたい。・ふくそうがはで！・お花が1メートルくらいあることがわかった！・へんな虫とかがいっぱいいておもしろい。・マレーシアのこん虫についてももっと知りたい！・マレーシアにいろいろなしぜんがあるってわかってうれしかったです。・ツインタワーが89階とわかった。・人面カメムシがいることが分かりました。・ミミズのでかいうんこを見たら、大ばくしようそでした。・小学校にせいふくがあると思いませんでした。・ふえがなんかひょうたんの形になっていてすごく、おもしろかったです。・マレーシアの学校は、教科書やノートが多い。・ほとんどの自然が大きい。・マレーシアは自然がいっぱいありそうだから行ってみたい。

〈児童の反応〉マレーシアの国についてふれるのは、初めてであったが、マレーシアボックスを通して、見て、さわって、におって、考えて、体感することで興味・関心を持つことができたようである。特に、熱帯雨林の動植物や昆虫について、「もっと調べたい！」という意欲的な児童が多かった。

3限目 4限目 もっと知りたい！マレーシア！！

5限目 6限目 かん国・朝せん、マレーシアと出会おう！！

- ① 各グループごとに、興味を持ったことについて調べたり、発表の準備をしたりする。
- ② 調べたことを、4年生に発表する。
- ③ 4年生からは、韓国・朝鮮のことについて教わる。
- ④ 発表会のふりかえり

〈児童の感想(マレーシアの発表を終えて)〉

・ぼくは、自然のグループだったから、森をつくったところがおもしろかった。・マレーシアの森がきれいにできてよかったと思いました。・マレーシアのことばをもっとしりたかったです。・マレーシアのうたもすごくおもしろかったです。・こん虫の森をもったとき、びりびりとやぶれましたが、たのしかったです。またやりたいです。ほんとうにたのしかったです。・がんばって作った森や1組や2組のはっぴょうもおもしろかったので、すごく楽しかったです。・ありがとうはトゥリマカシ、スポーツはスカンなどとはっきり言えたのでうれしかったです。・マレーシアで自分がこん虫をしょうかいするとき、自分がかいたやつをいいたかったけど、まちがえてほかのやつをえらんだのが、ちょっとしっばいでした

〈児童の反応・所感〉

マレーシアの言葉を調べたグループは、自分たちでマレー語の単語帳をつくって一生懸命覚えたり、遊びについて発表したグループは、休み時間もセパタクローで練習をくりかえしたり、発表にむけて自発的に取り組んでいた。マレーシアの森について調べたいという希望が最も多く、みんなで昆虫や動物などを調べているうちに、その種の多様性に驚き、よりマレーシアの森に魅力を感じ、実際に森を作ってみようということになった。4年生もマレーシアについて興味をもち、3年生も韓国・朝鮮についても学習したいという声が多く、相互の交流ができてよかった。

7限目 8限目 マレーシアの森でくらす人々

- ① 各班に1枚、ダガット村で撮影した写真をわたし、わかったことや、発見したことなどを話し合い、みんなの前で発表し、話し合う。
- ② 子どもたちの発表にそって、プロジェクターで写真を提示し、話し合いを深める。
- ③ 自分たちのくらしと違うところや同じところを見つけたり、森の恩恵に気づいたりする。
- ④ 授業をふりかえり、ダガット村に行くとしたら、どんなものを持っていくかなど、話し合う。

〈児童の感想〉

・わたしが1番スゴイ！！と思ったのは、日本では、作るんじゃなくて買って使うけど、ダガット村は、自分でぬりえとか、いろんな物を作って使っていたのが、スゴイと思いました。わたしは、先生からきいてダガット村は、音楽とか、ダンスがスキだとわかりました。・お客さんよのトイレやお風呂やスプーンやお水や色々なものをだしてすごく、お客さんがらくだと思う。・ダガット村は、ほとんど、家やものが手作り。・ダガット村は、ガスや電気がなくて、たいへんだけど、食べ物やしんせんのうちに食べれていいし、いえが高くなって、いろんな物が手作りだからいってみたいなと思いました。・ダガット村はとても自然がゆたかでこん虫もいるし動物がふつうにくらしているのがすごいと思いました。・ダガット村では、みんななかよくくらしているのがすごいです。・日本にはどろぼうがいるけど、ダガット村には、いないからすごいと思った。・トイレのことが分かりました。こんなやり方きいたことありません。びっくりしました。・先生の友達の男の子、いつも先生の大事な食料を川から取ってくれていつもたよりだったね。中学校が始まって会えなくなっかわいそうだけど、先生ゆうきだして！ふあいと！

〈児童の反応・所感〉

1枚の写真から、顔をつきあわせて一生懸命森でくらす人々の生活について考えていた。豊かな森に囲まれたダガット村へ、ランドセルやリコーダー、あいうえおの五十音表を持って、そして、家族もつれていきたいという声がきこえてきた。ジャパンボックスで防犯ベルをダガット村の人たちが、「暗闇の中で、友達をさがすための道具かな？」とこたえた話が、子どもたちにとって感慨深かったようである。

9限目 10限目 マレーシアの森は今・・・

- ① みんなで作った生き物が沢山くらすマレーシアの森から、伐採された森に掲示をかえる。
- ② オランウータンの絵本の1枚の挿絵から、感じたことや、思ったことを話しあう。
- ③ 実際に森が伐採され、オランウータンをはじめいろんな生き物、森にくらす人々が犠牲になっている様子をパワーポイントを使って伝える。なんのために木は切られているのか、考えてくることを宿題に。(9限目)

- ④ パーム椰子の実を渡し、この実からどんなものができるか考える。
 - ⑤ 洗剤、スナック菓子、口紅、そのほかいろんなものにパームオイルが使われていることを知る。
 - ⑥ 「子象の涙」のVTRを観て、パームオイルをめぐる様々な人、動物の気持ちを考える。
 - ⑦ パーム椰子プランテーションにより、多くのマレーシアの森がうしなわれていっていることと、自分たちの生活とのつながりについて知り、いたみを知った上で、これからどんなことができるか考える。
- (10限目)

〈児童の感想〉

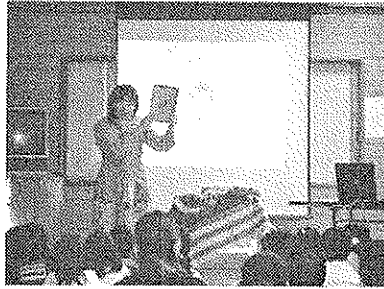
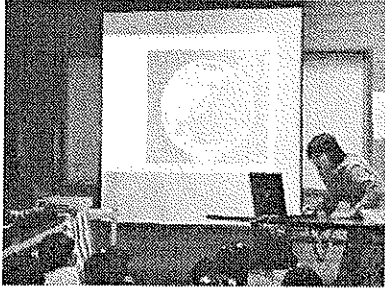
さいしよは、パームやしは、地きゆうにやさしいのかな～と思っていました。でも、えいぞうを見たら、パームやしをそだてるには、もともとあった木を切ってパームやしをそだてるから動物たちのすみかがなくなっていった象たちが行動するはんいまで小さくなっていっているからかわいそうでした。パームやしをそだてていて象にあらされるのもいやだけど、ワナにはまった象は、鼻がちぎれるほどひもをむすばされたり、電気をとおしているロープにふれると電気がいたいほどくるのがかわいそうでした。ぼくは、物をさいごまで大事につかいます。・やっぱり、パームやしの実をふやすからって、ねったいりんをはかいすることは、ないでしょうとおもいました。自然の物でできているものとかを大切にしないとだめということがわかりました。・パームやしのみをうえるため、ぞうがわたしたちのためにしんだりしてかわいそうだなと思いました。できるだけえんぴつとかをぎりぎりまで使おうと思いました。・パームやしの実は、せんざいとかポテトチップスとかいろんなものをつくれるなんてすごい！！とおもいました。人間は家をつくるためにぞうの森をこわしてぶんかいして家をつくるのです。でも、人間がよろこんでもみんなのぞうは、森をこわされたのでぞうはかなしくなってしんでしまいます。ぞうの森をこわさないでほしいです。・人間は、パーム椰子の実を使うのもいいけど、ちょっとは節約したほうがいいと思う。・パームやしの実でおかしやカップラーメンとかが作られているのを知って、人間の体にもやさしいからやくだつと思ったけど、そうしたらマレーシアのボルネオゾウたちのすみか(森)がなくなっていくのがちょっとひどすぎるなあとと思いました。・使えるものなら最後までつかう。たとえば、小さくなったえんぴつにキャップをつけて使うとか。・びっくりしたことは、ゾウのふんに木の芽がでているのがびっくりした。・ボルネオゾウが人間のわなにはまってかわいそうでした。わたしがこんなことになったら、もうないと思います。

〈児童の反応・所感〉

1枚の絵から、誰が木を切っているのか、ということで討論がまきおこった。絵にはオランウータンが犠牲になっている様子しかかかれていなかったが、自分たちで森をつくった子どもたちは、ほかの昆虫や象、植物についても心配し、心を痛めていた。森の伐採とペナン族の人たちの逮捕という事実について、はじめは「木を切ったから逮捕されたのではないか。」という意見が強かった。しかし、ダガット村の授業を受け、「森を大事にくらしている人がそんなに木を切るはずはないから、切らないでっていったら、もうけたい人に逮捕されたのかも。」と森を守る部族の人たちの気持ちまで自分たちで考えを深めていく様子がみられた。パーム椰子プランテーションについては、森の木とパーム椰子が同じ木に見えたようで、はじめは理解が難しかったようであるが、マレーシアの森の伐採と、自分たちの物質的な豊かさが関係していることについて、3年生の子どもたちなりに一生懸命考えていた。

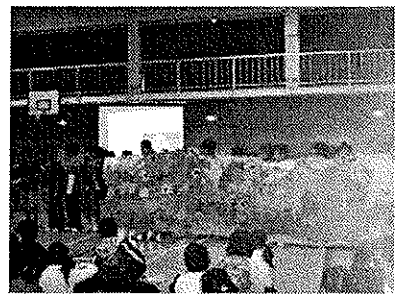
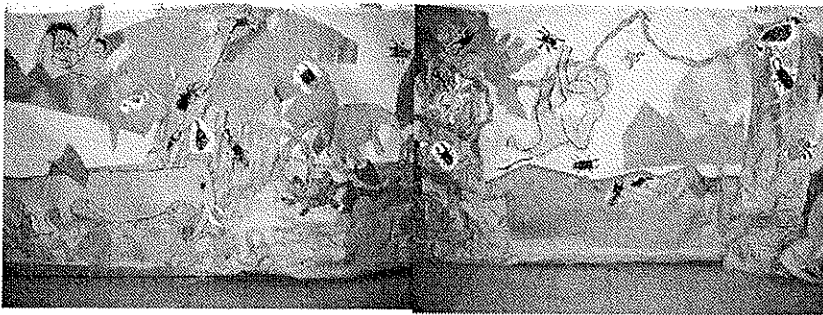
7. 授業の様子

○ 1限目 2限目「マレーシアってどんな国？」

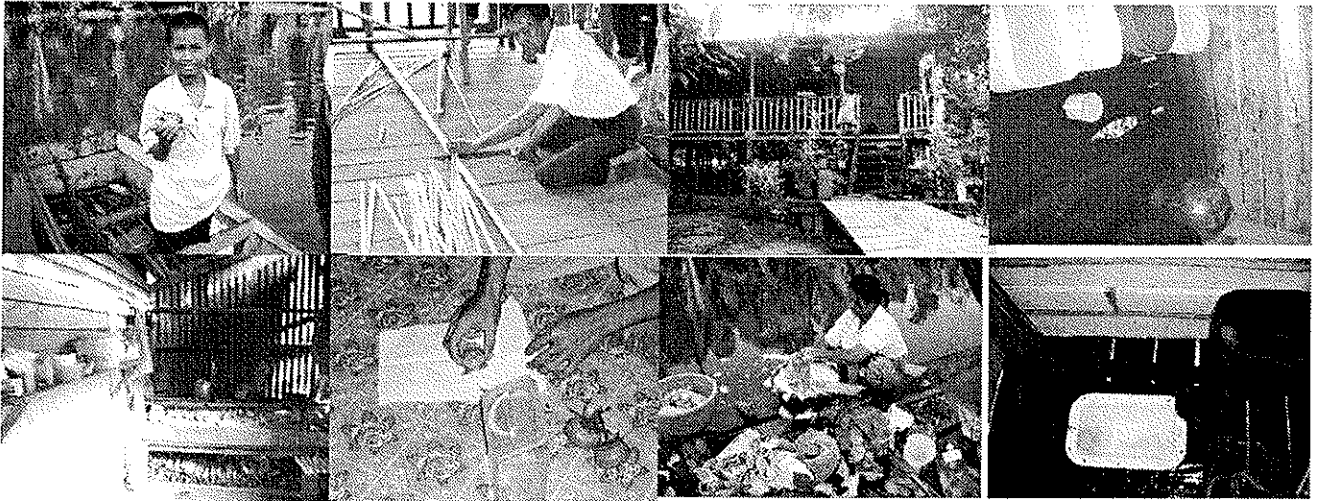


○3限目 4限目 もっと知りたい！マレーシア！！

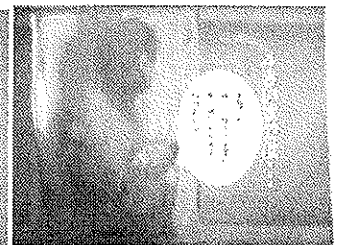
○5限目 6限目 かん国・ちょうせん、マレーシアと出会おう！！



○7限目 8限目 マレーシアの森でくらす人々



○9限目 10限目 マレーシアの森は今…





パームやし



8. 授業を終えて

私にとってマレーシアは、教師海外研修で実際に大地を駆けめぐって、人々や自然とふれあい、とても思い入れの強いものでしたが、子どもたちにとったらマレーシアとは初めての出会いといってもいいものであり、どのように動機づけをおこなったらいいか悩みました。

しかし、現地で収集したモノや写真、そして私の実体験をもとにして、子どもたちにマレーシアボックスやフォトランゲージを使って考えてもらうことで、興味・感心を持ってもらうことができてよかったです。何より、マレーシアの森に住む動植物や、昆虫、そして森での暮らしは、子どもたちにとって大変魅力があったようで、学習意欲はそこからわいてきていたのかなとも思いました。

多種多様な生物のすみかであり、人々にも数々の恩恵をもたらしてくれる熱帯雨林を、どこか遠くの森としてながめるのではなく、少しでも身近に感じてもらいたく、みんなで森をつくってみようという取り組みをおこないました。実際に、森をつくってみると、森に象がいることを不思議に感じたり、オランウータンは巣をつくるのに木が必要であると実感したり、自分が調べた昆虫を一生懸命描いて森の木や草にそっと置いて喜んだり、森について思い入れが深まったようです。

あまりに、嬉しそうにマレーシアの森を眺める子どもたちをみて、次の授業(森の伐採の現状)をどうやって進めるか行き詰まりました。まだ3年生なので、マレーシアの森の豊かさについて知るだけで十分かなと思いましたが、一緒に研修にいった先生方に相談すると、「そのみんなで作った森を伐採したら、気持ちがわかるのじゃないかな。」という助言をいただき、ずっと教室の前に掲示していたみんなで作った森のある日、伐採された森の現状にかえてみました。すると、みんな森にいた昆虫たちが気になったようで、掲示物を裏返してみたり、さがしたり・・・その日にオランウータンの絵本の1枚のさし絵から授業にはいりましたが、オランウータンだけでなく、様々な昆虫や動植物についても、胸を痛めている様子が見られました。

パーム椰子プランテーションと熱帯雨林の伐採についての関係については、ちゃんと木は植えられているという点で、子どもたちには、理解しづらかったようです。それでも、3年生の子どもたちなりに、自分たちの生活に、いろんな犠牲があるということを生懸命考えていた姿を見て、伐採されている熱帯雨林の現状まで授業をしてよかったと思えました。

これから未来を担っていく子どもたちが、成長をしていく段階で、ふとたちどまって、モノの豊かさの背後にある犠牲や痛みについて考え、行動できる人に育っていったらと思います。